

大崎麦作情報 第2号

～今後の管理のポイント～

- 生育ステージを確認し、追肥を行いましょう。
- 麦踏みを複数回実施し、生育量を調節しましょう。
- 明きよ・暗きよの再点検を行いましょう。

1 気象経過

- ・気温は、平年より高く推移し、特に1月以降は全ての半旬で平均気温が0℃以上となり、高温傾向が続きました。
- ・日照時間は、月別の合計時間でみると、平年並み～多照で推移しました。
- ・降水量は、まとまった降雨があったものの、全体としては少雨の傾向でした。降雪量は、1月第5半旬に合計18cmの降雪を記録しましたが、全体としては少ない傾向でした。

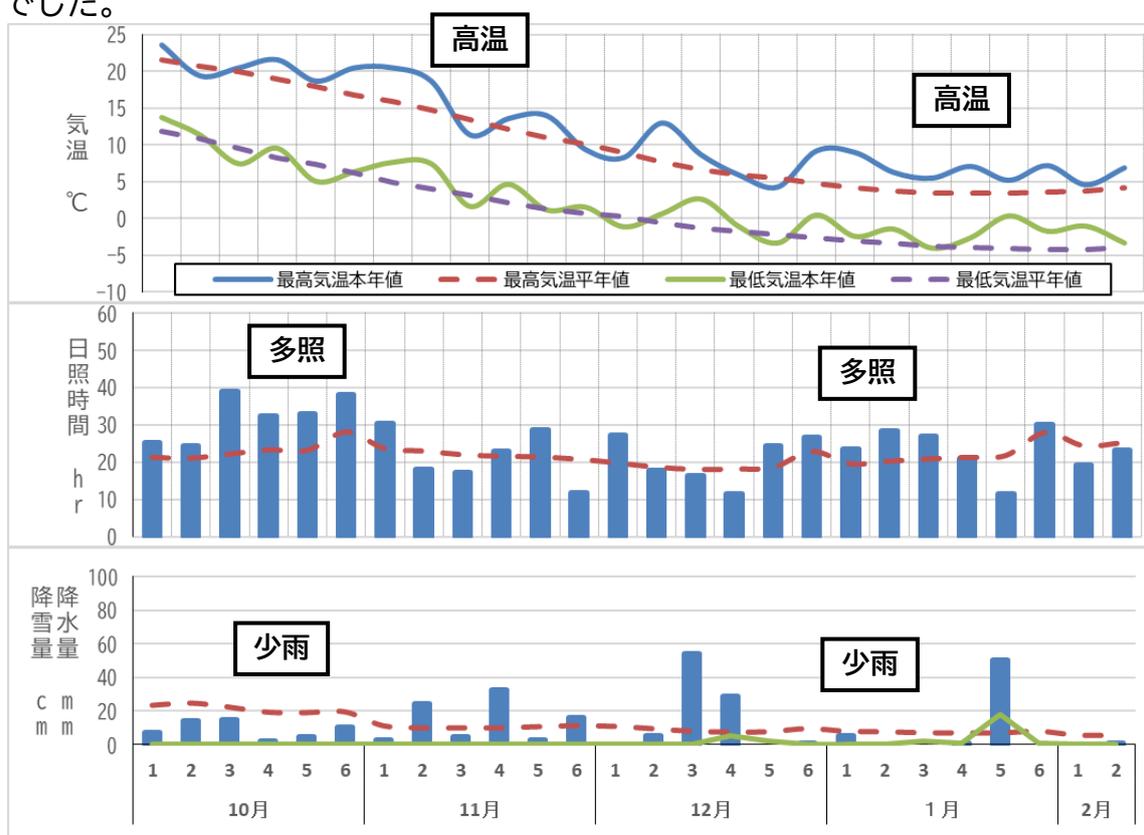


図1 10月から2月第2半旬までの気象経過 (古川アメダス)

※1 実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育状況(2月10日調査)

○小麦「シラネコムギ」

- ・播種時期は降水が少なく、平年より4日早い10月20日の播種となりました。
- ・草丈は、平年より長く推移し、2月10日調査では平年比143%の14.7cmとなりました。
- ・茎数は、12月15日調査時点で年内の目標である400～500本/m²を上回る678本/m²となり、その後も分けつが増加が進み、2月10日調査では平年比289%の1529本/m²となりました。
- ・根雪期間が短く推移しましたが、平年多くみられる鳥害はあまり見られませんでした。

表1 生育調査結果

地区名 品種名	調査日	播種日			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			幼穂長 (mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
古川 シラネコムギ	12/15				16.5	120%	133%	678	273%	188%	-	-	-
	2/10	10/20	-3	-4	14.7	115%	143%	1529	234%	289%	0.41	0.34	0.20

※1 平年差(比)は、過去5か年(令和元年～令和5年産)の平均値との比較

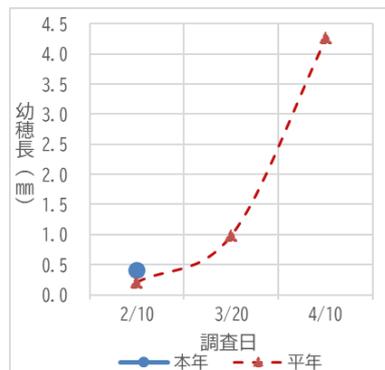


図2 幼穂長の推移



写真1 生育状況(2月10日調査)

3 今後の管理

(1)追肥

麦類の施肥は生育ステージに応じた必要量を分施するのが基本です。生育量や幼穂長を確認し、適期に追肥を行いましょう。

表2 追肥時期と施肥量の目安

追肥の時期	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50mm)	穂揃期 (8～9割出穂)
目的	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
N成分量 (kg/10a)	2.5	2.5～5	2.5
硫安の場合 (kg/10a)	12	12～24	12
尿素の場合 (kg/10a)	5.4	5.4～11	5.4

【幼穂長の測定方法】

- ①生育中庸な株の長い茎を3本以上採取する。
- ②茎の膨らんでいる部分を手で剥く、またはカッターで縦方向に切り裂く。
※ 勢いよく剥くと幼穂がちぎれてしまうので慎重に！
- ③茎の中心部にある幼穂の長さを測定する。
※ 芒は幼穂長に含めない！

(2) 麦踏み

- ・麦踏みは、茎立ち（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）前までに行いましょう。
- ・麦踏みの回数は、宮城県の慣行栽培では通常2～3回ですが、今年のような暖冬等のため伸びすぎ、生育が進みすぎたほ場では、大きな効果が期待できるので回数を多くする等して、生育量を調節しましょう。
- ・生育量が足りない場合やほ場が湿っている状態での麦踏みは逆効果となりますので、麦の生育状況とほ場の状態に注意してください。

主な効果 ～メリットがたくさん！～

○麦への効果

耐寒性・耐干性の強化、徒長や茎の早立ちの防止、分げつの増加、分げつ相互の生育調整、穂揃いの均一化、深根化、稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱・干害による被害の軽減、強風による土移動の軽減と防止

(3) 排水対策

麦は湿害に弱い作物です。融雪や急な降雨等により湿害が発生する恐れがありますので、明きよと暗きよの再確認を行いましょう。

- ・明きよ…手直し、管理機等で溝を作りましょう。
- ・暗きよ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。
- ・湿害の影響（出芽後期～分げつ期）
…根の伸長抑制による浅根、分げつの減少、葉の黄化、生育遅延

東北地方 1 か月予報

(2月10日から3月10日までの天候見通し)

令和6年2月8日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気象経過の各階級の確率 (%) >

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	20	70
3～4 週目	東北地方	20	40	40

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

